

和みをつくる光と影



0 1. コンセプト

光と影を愉しむ

中央に半透明の形を崩した物体(これを**散光体**と名づける)を配置することで、自然の光と街の光を可視化する。

形を崩すことで光が乱反射し、多方向に光と影が生まれる。

この建築の中でも立つ場所により光と影の量が異なるため、一人ひとりが自分に合った場所を探し、自分と向き合い、心を落ち着かせる。

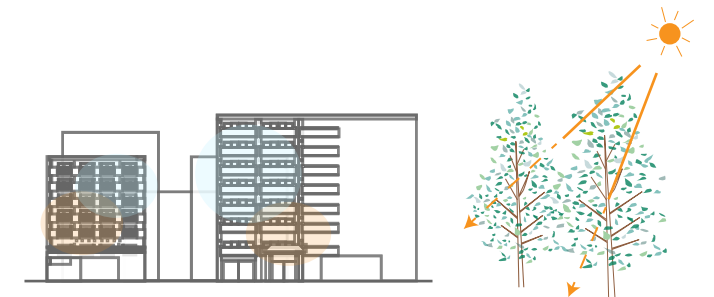
自然を可視化してその美しさを感じられるのは和に通ずるものであると考えた。ビルの人工的な光と木々の自然な光という2種類の光を中央の**光の合流点＝散光体**により多方向に分散させ、**無数の光と影の空間をつくる**設計手法である。

0 2. ダイアグラム

1. 場所の設定

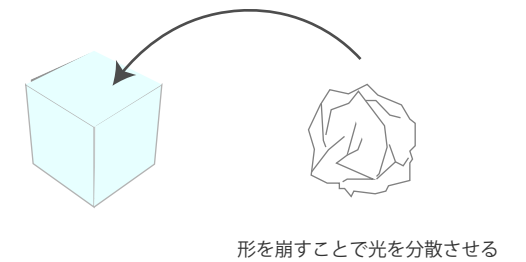
都会の公園にはビルからの光と木々の隙間から漏れる光といった2種類の光が入り込む。

この特徴から東京都庁やホテルが隣接する新宿中央公園を設置場所とする。



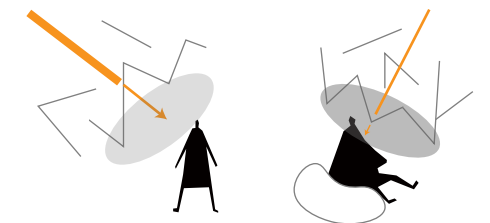
2. 提案する建築

ガラス張りの立方体の中に光を分散させる光体を配置する。



3. 提案による効果①

中央の光体により分散された光とそれによる影がつくられ、多様な光と影の空間ができる。



場所によって**光**や**影**の量が異なる



一人ひとりに合った空間を提供できる

4. 提案による効果②

光と影による多様な場所で**一人ひとりが自分に合った場所**を見つけることで心を落ち着かせることができる。

→自然の美(光と影)による心落ち着かせる空間は「和」に通ずる考えた。